

## Message

## 研究員メッセージ



【研究員】原田勇光 &amp; 原田世子

ミロスラボラトリー【セカンドライフ】では、超高齢化社会と言われている中で誰もが陥りやすい社会課題に対して、全く新しい角度からの根本的解決策や予防法を提案しています。なぜ社会課題は起こるのか？その原因とは？社会課題が引き起こされるメカニズムを知ることで、解消だけにとどまらず、未然に防ぐことができるのです。実証例を通して、そのメカニズムを紐解いていきましょう。



【研究員】野坂貴代子

愛し合って結婚した夫婦であっても、相手に合わせたり我慢を重ねたりする中で、いら立ちや寂しさを日々募らせていくものです。なぜ幸せが続かないのか？なぜ解り合えないのか？自問するも、その答えは見つからず…次第に満たされない思いを何かで代替し、内面の葛藤を避けるため見ても見ぬふり、互いに距離を置いていくように。自分自身との距離が遠くなってしまえば、何らかのトラブルを引き起こしていくことも。そこから何を受け取ることができるでしょうか。

## Topic

～社会課題～

## “気づかぬ夫婦の瀕死状態”を未然に防ぐ！

## 実証例

## 『イキイキした夫婦関係に蘇りました！』

突然、義母が救急搬送、脳幹に脳腫瘍の疑いがあると診断を受け、親族全員が死を覚悟する事態となりました。義母の命の危険信号から何を感じたのか。それは「瀕死状態…生きていない」ということ。ふと、ここ最近の私達夫婦の生活が思い浮かび上がりました。同じ屋根の下に暮らしてはいても、妻は寝室でイヤフォンをつけ、カラオケアプリの中で別の男性達とデュエットソングを歌う毎日。

食べる時だけ一緒…互いの近況や思いを話し合うこともなく、話しても馬耳東風状態。夫婦でのコミュニケーションもまともに取っておらず、無感情で、もちろん自分自身を知ることからも遠のいていました。「私達が精神的に死んでる？生きていなかった…」夫婦の現状と義母の姿とが重なったのです。夫婦関係の危険信号であったと受け取ってからは、自然に互いへの思いやコミュニケーションが蘇り、夫婦関係は劇的に変化しました。すると、その後の診断でなんと義母の脳腫瘍の疑いがクリアとなり、入院日数の延長や施設入居までの手配等が全て無料に。今は快適な施設で満足に生活しています。また私達夫婦にも旅行が当選したりと幸運が続き、イキイキした世界が広がり出しています。



体験者：山下大輔 &amp; 愛子

## Comment

いかがですか？“目の前の人や現象に感じること”と“自分が自分にしている行為”が一致した時、指一本触れることなく、状況が一変してしまいました。お互いが自分自身に全くの無関心…そうした無意識のパターンを俯瞰したことで、パートナーを通して自分自身を知る・エネルギーを融合していく活力が蘇りました。このように目の前を通して自分を知っていくことで、まだまだ人生は大きく変えられるのです。皆さんの第二の人生を応援しています。



【研究員】藤岡京子